

2014 年第 3 回「軍事情勢研究会」

(拓殖大学文京キャンパス A 館 3F : 10 時 00 分～12 時 30 分)

荒木和博講師「核危機から 20 年 朝鮮半島は動くか」

「先軍政治」を標榜する北朝鮮が（ミサイル開発を含め）核開発を始めてすでに 20 年が経ちます。その間、米国・日本・韓国は、北の核開発を止め、朝鮮半島の非核化を実現しようとしてきました。

北朝鮮は、日米韓から経済援助を受ける代わりに、核開発を中止すると公言したこともあります。けれども、北は秘密裏に進め、核兵器を保有するに至りました。

韓国の歴代大統領の中には、金大中のように、金正日に対し「太陽政策」を採り、北との融和を試みた人物もいます。もともと、金大中は、“北寄り”の人物でした。

その後、米国は、中国・ロシア・日本・南北朝鮮と 6ヶ国協議を通じて、北を経済支援し、朝鮮半島の非核化を目指しました。けれども、各国の思惑が交錯し、結局、北の核開発を中止させることはできませんでした。

2011 年に金正日が死去し、金正恩が北朝鮮のトップとなりましたが、最近、中国と太いパイプを持つ叔父の張成沢を処刑しています。

米オバマ政権としては、朝鮮半島の安全保障上、日米韓が協力しようとしてきました。だが、韓国の朴槿恵政権は、むしろ「反日」で中国との関係強化を目指しています。

一方、中国との関係が悪化した北朝鮮は、(特定失踪者等を含む)「拉致問題」という外交カードを使って、安倍政権と関係改善を模索しています。日本から多額のカネを引き出そうとする思惑が透けて見えます。今後、ますます朝鮮半島から眼が離せない状況です。

(文責：澁谷)